

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【新開小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

今年度の課題と学力向上策		
①	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題>基礎的・基本的な知識・技能の定着に関して個人差が大きく、児童一人ひとりの課題に合わせた個別最適な学びを展開できていない。 <指導上の課題>児童が自分の学習状況を踏まえて反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分であり、自ら習得状況を確認する機会が不足している。	⇒ 毎週学習タイムを設定し、児童一人ひとりの課題に合わせて学習に取り組む時間を確保したり、ICTを活用したドリル等を活用して、基礎的・基本的な計算等の反復・習熟に取り組んだりする。【15分を年間78回の実施】 ⇒ 学力向上タイムを設定し、学習の振り返りを行う時間を確保して、学習内容の定着を図る。【15分を毎学期末に1～2回の実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題>難易度の高い課題に対して、粘り強く取り組んだり、協働して解決を図ろうとしたりすることを諦めてしまう場面がある。 <指導上の課題>児童が主体的・協働的に探究する学習の充実を図ることが不十分である。	⇒ 学習を進める中で自分事として課題を設定できるような展開の工夫をしたり、協働的な学びとなるよう、答えが1つではない課題について考えたり、表現したりする活動を取り入れた授業を展開する。【1・2学期に研究授業または公開授業を全教職員が実施し、管理職及び教職員相互の参観と振り返りを2回以上実施する。】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語は、「我が国の言語文化に関する事項」についてはよくできた。しかし、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」については課題が見られた。特に情報と情報の関係付けの仕方についての理解が不十分であった。語句と語句をつなげたり関係付けたりして、思考の流れを整理することができるようにしていく。算数は、特に「データの活用」の領域について学習の成果が見られ、グラフや表から項目間の関係や条件を読み取ることがよくできていた。しかし「数と計算」「図形」の領域については、計算技能の定着や図形の意味や性質の理解について課題が見られ、個人差も大きかった。
思考・判断・表現	国語は、「話すこと・聞くこと」に関する領域は昨年度同様概ねできていたが、「書くこと」「読むこと」に関する領域は課題が見られた。説明文や物語文を読み取る学習に加えて、読書ボランティアと連携した読み聞かせ活動の充実や、自分の考えを明確にして書く活動の充実を図ってほしい。算数は特に「変化と関係」の領域について学習の成果が見られ、二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができていた。しかし「数と計算」「図形」に関する領域においては課題が見られ、特に記述式の問題について顕著だった。必要な数字に着目し、言葉と式を用いて記述できるように支援を続けていく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	学習タイムを設定することで、ICT等も活用して基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができた。また、学力向上タイムを活用することで、児童一人ひとりに合わせて習熟の時間を確保することができた。今後も継続して取り組み、個別最適な学びの充実を図っていく。	変更なし
思考・判断・表現	B	1学期に全職員で研究授業を参観・協議し、成果・課題の共有を図ることができた。また、児童の実態把握や指導の工夫・改善について、研修を実施することができた。今後はこれらの学びを基に、児童一人ひとりの実態に合わせた授業のあり方について更に研究を推進していく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)